

第3回福島市待機児童対策推進会議 議事録

1 日 時 平成30年5月28日(月) 13:30~14:45

2 場 所 福島市役所4階庁議室

3 出席者 木幡 浩会長、山崎麻弥子委員、栗花澄子委員、幕田晋市委員、
丹治洋子委員、斎藤典子委員、細谷 實委員、江口隆広委員、
原野明子委員、狩野奈緒子委員、立花由里子委員

4 内 容

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 挨拶

(4) 新任委員の紹介

(5) 事務局の紹介

(6) 議事

①平成30年4月1日現在の待機児童数について

②平成30年度待機児童対策緊急パッケージについて

(7) その他

(8) 閉会

5 概 要

(1) 議事【平成30年4月1日現在の待機児童数について】、【平成30年度待機児童対策緊急パッケージについて】事務局説明後、意見交換

6 委員の主な発言

○委 員 待機児童の減少に少しは私立幼稚園もお手伝いできたことを大変嬉しく思っている。これを継続して、私立幼稚園預かり保育支援補助金を30年度は8施設が予定している。幼稚園によっては、3歳児がいっぱいで取れないというところも結構あるが、いろいろな部分で、特に夏休みや冬休みなどの長期の預かり等も、新たな展開ができるかどうか検討しながら、さらに官民一体となって待機児童解消に努めていきたい。

今回は、市の窓口で多様な保育があることを説明していただいたことも大きな結果に繋がったと思っている。我々が去年から出している「のびのび」でも各園の預かり保育について、さらに情報が得られやすくなるように、今年は考えようと思っている。同時に市で発行している「えがお」でも、さらに、多様な保育があることを紹介していただき、保護者の皆さんも、今までわからなかったことがわかるようになったら、幼稚園の預かりにも行けるかなということこ

ろに繋がってくると思うのでぜひお願いしたい。引き続き官民一体となって支援していきたい。

- 委員 今回、待機児童の減少ということで、緊急パッケージで施策を進めて、結果、待機児童が減り、スピーディーに実施していただいていることに感謝する。しかし、待機児童の数としては減少しているが、現場としては、まだまだ不安なことも多く、待機児童が解消したことよっての保育士不足はかなり深刻化している。保育士の採用に関しては皆さん苦労していると聞いている。保育士に関していろいろな対策を取っていただき、市で、今のくらいの人材が足りないか、どのような時間帯、フルタイムなのかパートなのかという足りない部分を確認し、情報をいただいているので、継続していただきたい。

今後の待機児童解消対策で、保育士の人材バンクを考えているということで、ぜひ実施していただきたい。いろいろな形で、保育士の質の問題など今までの働き方を改めて考え直さなければならないと思う。それについていけない部分もあるので、保育士だけでなく管理者だったり園長職だったりの研修での意識改革や、人材バンクの内容に関してもどうということが求められているのかを現場ごとに確認して、力を入れていただきたい。

前の会議で保育施設の事務量が多く、ある程度書類のフォーマットを統一するといいいのではないかという話が出たが、それは、施設が変わっても様式が統一されていると取りかかりやすいというところで、今の若い人は、事務に対する負担感も多く、また、年配の方は、IT化についていけない状況で、その意識の改革もあるので、市で統一して示していただいて、その中で、その園の独自性を出しながらプラスしていくという考えを持っていけるといいと思っている。

- 事務局 人材バンクについては、いろいろな働き方、パートであったり、フルタイムであったり、人材バンクに登録するとき話を聞かせていただいて、施設がどういう人を募集しているかというところへ繋げていきたい。

また、フォーマットの統一について、具体的な進め方を検討していく。

- 委員 スライドの16ページ、今後に向けた取り組みとして、認定こども園が創設されることは素晴らしいと思うが、531人の定員が増えるときに、待機児童が多いと思われる0、1、2歳児の待機児童がどのくらい減るのか教えていただきたい。

また、保育士の人材不足ということで、保育士の国家試験で地域限定の試験があると思うが、地域限定の保育資格を出して、3年間その地域で働けば全国でも使えるというようなところまでの導入をするほどでもないという感じか。

- 事務局 地域限定の保育士の試験を今すぐ進める予定はない。

私立認定こども園では3号(※)が30人、公立認定こども園でも3号が30人、保育定員90人の私立保育所では3号が42人、60人の私立保育所では3号が15人で予定している。

※「3号」とは、3歳未満で保育を希望するお子さんのこと。

- 会 長 小規模保育に関しては希望者が少なかった。2歳で切れて、3歳以降入れないということがある。そこで市では、3歳以降、幼稚園や保育所との連携で、ある程度保障することで、0、1、2歳児を地域型に入りやすくしようという取り組みを始めている。その内容について説明をお願いします。
- 事務局 幼稚園との連携も進めているが、小規模保育は安心して次にいけないということで、どうしても保育所のほうが、希望が多いのが現状。連携施設については、3歳児の枠が少なく、4歳児と5歳児の枠は大きいところがあるので、条例等も改正しながら連携施設がきちんとわかるように募集していくことで小規模も入りやすくなると思うので連携を進めていきたい。
- 委 員 小規模保育だと0、1、2歳のお子さんだけで、その上に兄弟をお持ちの保護者は2か所、もしくは3か所も回ってお子さんを預けながら仕事に行っているような状況なので、単に3歳から預けるところがないという問題よりも、毎日仕事に行くのに乳飲み子とそれ以上の子と一緒に違う場所に預けること自体が保護者にとって大変な問題になっていると思う。そこを何か考えられないかと思う。
- 委 員 普通の保育所や幼稚園と比べて小規模保育は後からできた制度ということもあり、0、1、2歳の間だけとりあえず見てもらうという感じで保護者が理解していると感じる時がある。大きい所の定員が空くと、小規模からそこへ行く。上の子が通っているところに行く。小規模に入ったのはいいがそこから抜けていく。定着する前に抜けていく感じなので、保育の現場から見ると子どもたちが流れて去っていくイメージ。利用はされるが定着というところまで考えると子どもたちにとってどうなのか、保護者にとってどうなのか、と疑問に思う時がある。
- 会 長 本当にそうになると、子どもたちもそうだが、経営側としても非常に難しい。都会だったら、例えば駅に一旦子どもたちを連れてきて、そこからまた各施設に届ける方法ができないかと考えてみたが、福島市だと分散しているのでそこまでの需要があるのかと思っている。
- 委 員 ここ2年くらい、卒業生が、大きな所ではできないような一人ひとりを見ていく保育ができるのではないかと期待して、小規模に勤め始めている。戻ってきてたびたび話を聞いたりするが、子どもの入れ替わりというか、流れていくというか、職員もそもそも足りなくて、休みを取っても、子どもを別の先生が見たりすると、休んだ後にちょっと様子が違ってきたりなど、保育の質を確保していくことに、非常に難しい問題があり苦労しているのではないかと思う。1カ所、2カ所の問題ではなく、体系的な問題があると思っており、皆さんで考えていくところではないかと思う。
- 会 長 前に、公立保育所で行っている潜在保育士の就労支援事業を、民間でもやってほしいという話があったが、その後どうなっているか。
- 事務局 今年も、民間の方も参加できるよう検討していく。
- 委 員 職員の資質向上の研修を、金銭的なことや時間的なことがあるので、公的に積極的にやっていただけるとすごく嬉しい。ぜひ機会を設けていただきたい。

○委員 職員を研修に出しやすくなるように夜や休日に開催していただけると助かる。

○委員 待機児童が大幅に減少したということは本当に官と民と両方で頑張った結果だと思っている。公立の場合は、0、1、2歳の受け入れ枠が少ないので、施設を改修したりなど、受け入れられるよう見直しをかけているところ。

小規模に入れていただいて、3歳以上になったときに、その地域のそんなに遠くないところに預けられる方は、公立に確実に繋いでいけると、保護者の方も安心して入れるかと思う。また、施設の取り組みとして、小規模にお邪魔して、そこで一緒に保育するなど地域で一緒に取り組んでいけるところかと思っており、少しでもやっていけたらいいと思っている。

○委員 待機児童を減らすために施設をつくって保育士さんを増やすのは当然だが、待機児童が増えないような企業側の努力も必要なのではと感じた。育児休業の制度がない、取ったことがない、あるが取りづらいなども待機児童が増える要因になっているのではと思う。企業側でできる努力も、まだまだたくさんあるのではないかと感じた。

また、待機児童数が、4月より10月に必ず増えているが、待機児童の数が秋に向かって増える要因にはどのようなものがあるのか。

○会長 基本的に4月に入った方は年度末まで在籍する。その後、育児休業が終了したり、自分も働いてみようかという人の申込みがあるので待機児童が増えてくる。

○委員 幼稚園で2歳児の就園も可能になったので、その点で多少協力できる部分があると思っている。

まず、入所不承諾のうち待機児童に含めない場合の主な事由で一番多いものは何か伺う。

また、市長から福島市を、子どもを産み育てやすい街にしたいという話があったが、これはとても大事なことだと思う。家で子どもを育てることに対してどういう支援ができるかという部分もぜひ市として考えていただきたい。日本ではどんどん出生率が下がって、将来、高齢者ばかりの世の中になってしまったら大変な話。フランスでは、出生率を上げる努力をして、2.0以上まで回復したという事例がある。それは減税など所得の部分でいろいろ政府がやったから。福島市では何ができるかというと、例えば家で育てる場合に市民税を減税するなど。2歳の幼稚園への就園が可能になってくるから、0歳、1歳ということになるのかと思うが、その辺も福島市の目玉として考えていただくと、家で育てるパーセンテージが増えて待機児童の減少に結びついてくるし、相乗効果的になってくると思うので、ぜひ検討していただきたい。

○会長 国が、幼児教育あるいは保育の無償化を発表している。それは本当に大きな制度的な面なので、目玉といっても我々だけがやるとなると、かなりの金額を要することは間違いない。そう簡単にやれる話ではないと思っている。

国では、そういった面での保育、自宅での養育、幼稚園とかいろいろな選択肢を準備していくことが大事だと思う。今の状態で、心配しているのは保育の

無償化を先行すると、ただでさえ保育士が足りなくて困っているのに、保育に殺到して、また待機児童が激増して大変なことになるのではないかということ。並行して保育士の処遇の改善など受け入れ体制をしっかりとすうえで無償化をやってくださいと申し上げている。いずれにしても制度によっては、不公平感などいろいろ出てくる可能性があるので、きめ細かに検討しながら制度設計をしていく必要があるだろうと思う。

○事務局 待機児童に含めない数では、特定の保育所希望や、兄弟姉妹の施設の同時希望が多くなっている。

○委員 公立保育所の保育士採用試験を今年から6月に実施するということが、学生さんは保育所と幼稚園と実習でどちらの方向に行こうかを割と決めているように思う。先行して採用試験を6月に実施することで、優秀な学生さんを早めに採用する考えなのかと思うが、6月に実施する理由を教えてください。

○事務局 なんとでも保育士を確保していかなければならない状況になっており、養成校からも早めの募集という話もあり、今回は6月の募集ということにさせていただきました。

○委員 私立側と競わないようにしたいと思う。私立幼稚園も6月30日に就職説明会をやるようにした。今までやはり9月くらいだったが、遅いということで市内の全部、県内の保育科のある短大、大学、あとは近県にもチラシを送っていて、30日それぞれブースに来てもらう。ほぼ同じ時期だから取り合いになる状況も考えられるし、給与もなかなか私立は公立のような水準までにはいっていない。認定こども園とか保育所は国からの処遇改善もあるが、幼稚園はそれがまだ全部にはこない。いろいろ条件がある。結局学校法人の幼稚園の場合、独自で処遇改善をやっていかなければならないから、厳しい部分もある。短大卒で基本給20万は出せない。せいぜい18万5千円くらいまでが限度かなと思っている。だからそういう部分で公私が競わないようにしてほしい。

公立の短大卒の初任給はいくらくらいか。

○事務局 初任給は16万ちょっと位だったかと思う。

○会長 保育士だけでなく普通の企業で働くのも最近多くなってきているが、普通の企業はだいたい早い。また、実習してみて決めるという話があったが、他との絡みもあるのでちゃんと考えなくてはいけない部分かと思う。実習自体も全体的に早くするなど。本当に就職活動は早い。

○委員 先程、皆さんの話の中に保育士の確保があったが、幼稚園も全く同じで教員の確保という部分が大きな課題だと思っている。来年から市立幼稚園の再編で、大きく市内の幼稚園も変わってくる。そういった意味でも幼稚園の先生方が一番心配しているのが、この先どうなっていくのかという部分で、保育の質の向上であったり、質の確保であったりという観点からも、教員の確保というものは大きな課題だと思う。施設を新しくしたり、ハード面もちろん大事だし、何よりも先生方の研修を含めたソフトの部分でも、私たちはしっかりと目を向けていかなければと思っている。